

- 3)抗不安薬としてもっとも多く用いられる⑥系薬物のジアゼパムは、不安、緊張、焦燥などの症状によく効くため、⑦症以外にも、身体疾患を含む様々な疾患に処方されている。
- 4)フェノチアジン系薬物によって生じやすい副作用である⑧症状としては、便秘、鼻閉、口渇、起立性低血圧、視覚調節障害、頻脈・徐脈、発汗等がある。
- 5)⑨は、ブチロフェノン系薬物によって生じやすい⑩症状で、下肢がむずむずしてじっとしていらなくなるが、⑪薬の投与で消失する。
- 6)睡眠薬(睡眠導入剤)としては、主に⑥系と、バルビタール系の薬物が用いられるが、後者は⑫が強いため、急に服薬を中断すると⑬が出る場合がある。
- 7)抗精神病薬によるもっとも重篤な副作用である⑭症候群は、⑧症状と⑩症状の合併による極度の筋強剛と高熱、意識障害を呈して生命の危険を伴うが、精神科治療薬を即時中止して点滴と全身の冷罨法を施すことによって危険を回避することができる。

15. 身体疾患患者の精神症状について、誤っているものを2つ選んで下さい。

- 術後せん妄が生じている患者でも記憶力は保たれている。
- 全身性エリテマトーデスでは、しばしばうつ状態が見られる。
- 甲状腺機能亢進症では、うつ状態になることが多い。
- 長期にわたる慢性の身体疾患患者は、失感情症(アレキシシミア)になることがよくある。
- リエゾン看護の対象となる患者の精神症状でもっとも多いのはせん妄、それに次いでうつ状態である。

16. コンサルテーション・リエゾン精神医療の臨床活動に関連して、正しいものを一つ選んで下さい。

- 全人的、総合的医療が求められる一方で、現代の医療は高度化、専門化の時代でもあるため、全人的、総合的な医療はリエゾン医療スタッフの専門性に委ねられている。
- 若くして頸髄損傷を負った女性がICUから整形外科病棟に転棟してきた。予後について話し合う頃合を見計らううち、精神的に不安定になり暴言を吐くなど手に負えなくなったので、リエゾン医療スタッフに援助を求めた。
- リエゾン医療スタッフが、一般病棟を定期的に回診したり、カンファレンスに積極的に参加したりするなど、医療チームの一員として活動している。
- 患者が精神科に対し偏見を持っており、精神科医の診察を拒んだので、速やかに受診させるため、精神科医であることを伏せて受診させた。
- コンサルテーション・リエゾン看護師は、患者を担当する看護師の相談にのる際、必ず患者とも接触をとる。

次頁あり